第１９回修了式　校長式辞

令和７年３月１０日（月）

本日、ここに埼玉県立常盤高等学校　第１９回修了証書授与式を挙行できますことは、私ども職員一同、この上のない喜びでございます。ただいま修了証書を授与いたしました修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんが看護の道を志し、本校に入学してから５年が経とうとしています。今、皆さんの胸の内には、どのような思いが巡っていることでしょうか。皆さんが入学したのは、令和２年４月、まさに世界中を震撼（しんかん）させた新型コロナウイルス感染症が流行し始めたころでした。簡素な入学式、その後の長期にわたる臨時休校、また分散登校、日常生活や学校生活は大きく変化してしまいました。学校行事も中止になったり、制限されたりしました。病院等での実習もこれまでのように実施できなくなりました。皆さんの学びや活動の機会が十分に確保できなかったこと、本当に申し訳なく思っています。

そのような状況の中でも、皆さんは、決して自分を見失うことはありませんでした。自分の夢の実現に向けて、明るい笑顔を忘れずに最大限に取り組み、今日という日を迎えることができました。

改めておめでとうございます。そして、私の長い教員生活で、皆さんと出会え同じ時を過ごしたことを誇りに思います。本当にありがとうございます。

新たなスタートに立つ、修了生の皆さんに、二つのことお願いして餞といたします。

一つ目は、これからもいろいろなことに果敢に挑戦し、自分の持っている資質や能力を高めてほしいということです。

皆さんは二十一世紀に生まれ、二十一世紀の中核となる人たちです。人工知能ＩＣＴ技術の進歩やグローバル化、人口減少など、日本はこれまでに経験したことのない時代を迎えます。私たちの生活は、より快適で便利なものになるでしょう。一方で、AI の進歩は人間の仕事を奪ってしまうとも危惧されています。

こうした時代だからこそ、チャンスがあります。新しいイノベーションが生まれます。これを活かすには、学んだことや経験したことを土台にして、多くのことを学び、自分の可能性を信じて、失敗を恐れず果敢にチャレンジし、社会に貢献してください。

二つ目は、他者を思いやり、人と人の絆を大切にしてほしいということです。
二万二千人以上が犠牲となった東日本大震災を始め、熊本地震や能登半島地震など、多くの尊い命が奪われました。いまだに避難を余儀なくされている人もいます。台風被害や大雪、山林火災など多くの災害も存在しています。
そして、被災した地域では多くの人達がボランティアとして復興の手助けをしています。
世界に目を向ければ、各地で紛争が続き、多くの避難民を出している国もあります。人類がこれからも繁栄を続け、共存できる豊かな国際社会を築くためには、自分を大切にすると同じくらいに他者を思いやり、行動することが大切です。
今年は大阪で万博が、東京ではデフリンピックや世界陸上が開催されます。国境を越えて人と人との絆を築いてください。

そして、新しい世界に飛び出す、皆さんの未来に幸ありますように！

ここで、ご家族の皆様に申し上げます。本日は誠におめでとうございます。また、修了式に御臨席いただきありがとうございます。皆様には、これまで本校の教育活動やＰＴＡ・後援会活動に対し、温かい御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。そして、ここまでお子様を立派に育て上げた皆様に対して、心から敬意を表します。今後、未来の医療を支えていく看護師・医療人として、様々な方面で活躍してくれるものと信じております。

結びになりますが、修了生の在学中、お力添えをいただきましたすべての関係各位に対して、厚く御礼を申し上げるとともに、修了生の皆さんのますますのご健勝とご活躍を祈念し式辞といたします

令和７年３月１０日
埼玉県立常盤高等学校長　鴨志田新一